

# 抱樸館を支える会 会報

56号



2022年12月1日発行:抱樸館を支える会

## 見えない家計を「見える化」して

～グリーンコープ生協おいたの家計改善支援事業～

グリーンコープ生協おいた生活再生相談室にある家計改善支援事業について、今の支援の様子を室長の伊藤清晴さんと主任相談員の近澤和子さんにお話を聞いてきました。

——家計改善支援事業とは。

「グリーンコープ生協おいたでは、2008年に生活再生事業をスタートしました。当時は、多重債務や過払い金などの弁護士相談、お金の貸付などを中心に、様々な相談を受けていました。2015年には、家計改善支援事業を各自治体から受託しスタートしました。相談者の家計についての課題を把握し、その方に合わせた支援計画を作成して相談者の自立に向かって一緒に歩んでいます」

——相談者の年齢層のことを教えてください。

「どの世代が多いということはありません。若い方から高齢の方、そして外国籍の方なども相談に来られたりします。年代に関係なく、真面目な方がとても多いと感じます。真面目さが故に、ぎりぎりになるまで自分で頑張っていて、どうしようもなくなって相談に来られるケースもあります」

——どのような相談がありますか。

「基本はお金に関する困りごとです。最近では、携帯などのキャッシュレス決済の普及に伴って便利になっている反面、支払い状況が見えにくくなっているケースがあります。買い物代金のキャッシュレス決済、携帯電話の動画やゲームアプリのサブスク（定額使い放題の

利用）や、給与ファクタリング（給与を事実上の担保とし第三者から資金を借りるサービス）、ネット銀行を利用してお金を借りるなど、いろいろな手段でお金を使うことができます」  
「私たちは、まず相談者が目で見分けるようにアドバイスすることが大切だと思います。いわゆる『家計の見える化』です。収入と支出のバランスが取れるように、具体的に不足する金額を出します。そのなかで、家計の節約や現在契約している携帯電話や保険料などの見直し、もしくは家計の赤字額を目標に収入増ができないか、ハローワークと連携した支援、転職やダブルワークなどの検討をします。時には、買い物のレシートを全て見せてもらい相談者と一緒に家計の見直しをします」  
「そのほかの支援として、弁護士相談、市役所への税金滞納支払い、携帯電話の契約切替えなどにも同行します」

——支援で大切なことや嬉しかったことは。

「私たちは、相談者に指示や指導はしません。相談者にどうしたら気付いてもらえか考えます。面談では、『家計表や債務一覧表を作成するのでお話を聴かせ下さい』など何をするか明確に伝えます。相談者の不安を取り除きながら、信頼関係を築くようにしています。そして『この人なら話してもいいかな』と思ってもらえるよう、話しやすい雰囲気をつくり対話をしながら、問題点を見つけ解決に向かえるようにしています」

「支援が終わったあとでも、近況報告をくれる方もいます。元気に過ごしていることが分かると、本当に嬉しいです」

——ありがとうございました。



左 伊藤清晴室長  
右 近澤和子主任相談員

## 熊本で誰もが入居できる住宅を提供し続けて

～まつお不動産株式会社での断らない支援とは～

抱樸館熊本を退居して地域で生活を送るためには、新たに住居を探す必要があります。その時に大きな力となっているのが、まつお不動産株式会社です。まつお不動産では、不動産業のほか、居住支援法人や訪問看護事業もされています。今回、代表取締役の松尾実さんに話を聞いてきました。

——抱樸館熊本と連携するきっかけを教えてください。

「抱樸館熊本の入居者が、次の住居を探す際に、私たちの会社を利用されたことがきっかけです。私たちの会社が開業したのが平成24年（2012年）ですが、抱樸館熊本とは開業当初からずっと連携をしていますので、もう10年ほどになります」



松尾実 代表取締役

——居住支援法人※はいつからされていますか。

「私たちは、居住支援法人を取得する以前から、住宅確保要配慮者への住宅提供を行っていました。新しい住宅セーフティネット制度がスタートし、2019年に指定を受け、居住支援法人としても活動を行っています」

※ 住宅確保要配慮者（低所得者、被災者、高齢者、障がい者、子どもを養育する者、その他住宅確保に特に配慮を要する者）の民間賃貸住宅への円滑な入居の促進を図るため、住宅確保要配慮者に対し、賃貸責務保障の提供、賃貸住宅への入居に係る住宅情報の提供・相談見守りなどの生活支援を実施する法人として、都道府県が指定するもの。

——断らない支援をしているとか。

「私は、昨年からは保護司としても活動を行っています。そうしたなか、色々な方々と出会います。出所したばかりで住むところが無い方、色々な不動産を回ったけれども審査に通らず家を借りることができな方など相談内容は様々ですが、相談に来るみなさんは、住むところが見つからず、相当に不安を抱えていると思います。私はまず、相談者が安心してもらえるように『物件の紹介をするなかで、

私から断ることはしません。物件をご覧になって、気に入る物件が無く、断る権利があるのは相談者の皆さんです』と伝えていきます。部屋を貸すことができるのに断るということはしないよう心がけています。また、話をするときには、真剣に、真面目に、そして相手に安心して話をしてもらえるよう、決して上から目線で話をしないようにしています」

「不動産の仕事をするなかで、入居者が失踪、逮捕、孤独死するなどのリスクがあります。そのリスクを家主に負わせてしまうことになるので、私たちが所有している物件、借り上げている（サブリース）物件、全てを管理している物件だけを使って住居の紹介を行うようにしています」

——訪問看護事業もされているんですね。

「熊本で不動産や居住支援法人の仕事をするなか入居者が増え、スタッフも増えてくると、色々なアイデアが生まれてきます。入居者の中には、色々な病気を持っているけれど、病院ではなく、自宅で過ごしたいと思う方も多くいます。そんな時『訪問看護が必要だ』と考えるようになりスタートしました」

——仕事をするなかで良かったと思えることは。

「ひとつは、人の命を救えたときです。病気の影響で、自宅にて倒れてしまう方もいました。その時に、救急搬送が間に合って、無事に一命をとりとめることができました。もう一つは、孤独死を防ぐことができたときです。入居されている方の孤独死はとても辛いと感じます。病院などで誰かに見守られながら、安らかに眠ることができることができたときはその方にとっても良かったと思います」

——今後やってみたいことなど。

「看取りまでができるような施設もしくはアパートなどを自分で運用したいです。終の棲家として、最後まで安心して過ごすことができるそんな家を提供したいです。また、家だけでなく、家の庭には犬を飼い、池を作って鯉を飼うなどして、入居されている方の心を癒すことができるようにもしたいです」

——ありがとうございました。

# 人生は一人では生きていけない

～抱樸館卒業生の瀬戸康孝さん取材しました～

今回、抱樸館福岡の卒業生瀬戸さんに当時のことや今の様子などお話を聞いてきました。

瀬戸 康孝さん

昭和30年生まれの67歳。

抱樸館福岡を退居後、地域で生活し、現在は西鉄電車の清掃の仕事をしてられます。



——学生時代のことを教えてください。

「出身は福岡です。小学生ぐらいから足が速く、駅伝の大会に出て優勝するほどでした。おかげで高校は特待生として入学し、駅伝選手として活躍しました。高校を卒業したら、駅伝の有名大学に行く予定だったのですが、高校3年生の時、合宿先での練習中にアキレス腱を切る大怪我してしまったことで駅伝はやめました」

——高校卒業後に料理人を選んだ理由は。

「兄が料理人だったことが影響して、高校卒業後は、料理人として働き始めました。当時、有名中華料理店で働きながら、調理師の資格も取りました。また、会社が海外でも勉強もさせてくれて北京、上海、香港、台湾、大連などで、本場の料理を学びました」

——得意料理は何ですか。

「北京ダックです。店によっては、冷凍ものを使うところもあるのですが、私は冷凍など使わず、生の食材を使って、焼くときも窯を使って作っていました。後は、刺身も作るのも得意です。1人で鯛を50匹ぐらいさばいて、きれいに盛り付けまでしていました。有名な店だったので、テレビ取材もよく来ていました」

——ホームレス自立支援センター北九州に入居されたきっかけは。

「2008年に勤めていたお店が倒産しました。仕事と住む家を同時に失くしてしまい、手持ちのお金を持って、博多から兄のいる北九州の小倉まで、野宿をしながら歩いて向かいました。でも、いざ小倉に着いたら兄に迷惑をかけてしまうと思って、会いに行くことができませんでした。それから半年ほど、小倉城や小倉駅などで野宿生活をしていました。そ

の時、NPO法人北九州ホームレス支援機構（NPO法人抱樸の前身）の方に声をかけてもらい、ホームレス自立支援センター北九州に入居させてもらいました」

「退居した後は、小倉で再び料理人として仕事をすることができました。チーフとして入社し5年間、ほとんど休みなく仕事を頑張っていました。でも、無理がたたって倒れてしまい、そのまま退職するしかありませんでした」

——その後はどのようにして過ごしたのですか。

「小倉から博多まで歩いて行きました。行くあてが無かったので、福岡市内の高速道路の橋の下で野宿をしていました。その時、抱樸館福岡の職員に出会って、抱樸館福岡に入居することになりました」

——抱樸館福岡での生活はいかがでしたか。

「抱樸館に入居できて、本当に良かったです。『このままで終わりにたくない、負けたくないし、頑張らないといけない』とずっと思っていました。当時、生活保護を受けていたのですが、申し訳ない気持ちがあつて、早く自立したい気持ちがありました」

「抱樸館福岡の職員のみなさんは優しくついで、その時に『人生一人では生きていけないんだな』と心から感じました。みんなの支えがあつて、今があると思っています」

——今の仕事のことを教えてください。

「西鉄電車の清掃の仕事をしています。座席やつり革、エアコン、床の掃除から、外側部分もきれいに清掃をします。仕事はハードですが、とっても楽しいです」

——瀬戸さんから抱樸館の職員皆さんへメッセージをいただきました。

「抱樸館福岡を退居した時、職員のみなさんと撮影した写真とメッセージを色紙にしてもらいました。悩んで元気がないときに、その色紙を見ると『元気をだしなさい』と言われてるように感じます。今こうやって生きているのは、抱樸館のみなさんに出会えたからです。抱樸館との出会いに感謝しています」

——ありがとうございました。

# つながる・支える ほうぼくかん 抱樸館福岡マップ

**01** グリーンコープ連合会  
・青果リパックセンター  
・店舗センター



就労訓練を経てアルバイト雇用された方も多数います。

**02** グリーンコープ生協ふくおか  
福岡東支部



配送トラックの回収物の整理作業を入居者や卒業生が就労体験しています。

**03** 社会福祉法人グリーンコープ  
ふくしセンター多の津



生活訓練・就労継続B型作業所、訪問介護事業所と連携しています。

**04** 社会福祉法人グリーンコープ  
たのつ・りすっこ保育園



「たのつ・りすっこ保育園」の園児と抱樸館福岡の畑で芋ほりをしました♪



抱樸館福岡の隣にある、「たのつ・りすっこ保育園」の子どもたちと一緒に、抱樸館福岡の畑で芋ほりを行っています。





**07** 社会福祉法人グリーンコープ  
ファイバーリサイクル  
センター



**07** 社会福祉法人グリーンコープ  
ファイバーリサイクルセンター

自立支援の一環として  
就労訓練を行っている重要な連携先。  
多くの入居者が就労  
訓練を経て地域で自  
立しています。



**06** グリーンコープ連合会  
福岡物流センター



**06** グリーンコープ連合会  
福岡物流センター

生産者やメーカー  
から抱樸館福岡へ  
の支援物資が届き  
ます。



**05** 社会福祉法人グリーンコープ  
抱樸館福岡



津屋本町  
バス停

多の津5丁目

熊野神社

抱樸館から一番近い  
バス停が津屋本町で  
す。

須恵川



**05** 社会福祉法人グリーンコープ  
抱樸館福岡

生活困窮者のための自立支援施設。生活  
困窮者の「ハウス(家)」であるだけでなく  
「ホーム(心のよりどころ)」になることを  
願って、再び地域で自立した生活がで  
きるように支援しています。  
春には地域から寄贈していただいた16  
本の桜が見ごろになります。

抱樸館HPは  
こちら



ボランティアで地域の  
清掃をしています。



抱樸館福岡では、支援プログラムの一  
つとして、地域の清掃ボランティ  
ア活動などを行っています。

ステップアップ  
多機能型事業所



多くの抱樸館卒業  
生が通っています。

JR 長者原駅

## 子どもたちと地域の方々との架け橋に

～グリーンコープ宮崎の子どもの居場所りすのおうち『グリーンベース』から～

2021年10月にオープンした宮崎市にある子どもの居場所、りすのおうちグリーンベースを取材しました。ここは、社会福祉法人グリーンコープ子育てポートセンターあん・あんのスタッフが中心となって運営をしています。今回、管理者の福川圭子さんを始め、スタッフの皆さんにお話を聞いてきました。



—りすのおうち『グリーンベース』の名前の由来を教えてください。

「グリーンコープのグリーンと、ベースはこの居場所が子どもたちの基地や土台となるということ、また、居場所を植木鉢のようにイメージして、子どもたちの成長として芽が出て、花が咲いてほしいという願いを込めてこの名前にしました」

—食事のお渡し会もされているんですね。

「居場所をスタートした時、この居場所で食事までして帰るという予定だったのですが、新型コロナウイルスの影響を受けて、一時期は食事を自宅で食べてもらうように変更しました。閉所している期間もあったのですが、その間も食事だけは『お渡し会』という形で配布していました」

—印象的な出来事を教えてください。

「マスクを付けることや会話の自粛、学校給食では黙食が当たり前になりました。この地域は集団登校をしているのですが、小学校1年生と6年生と一緒に登校していても、会話がなかったそうです。一緒に登校している子どもたちが、ここに遊びに来て『今日ここで初めて話をした』と聞いたときは驚きました。半年以上一緒に登校していたのに会話がなかったんです。また、ここで食事をしたとき、アクリル板はあるものの『みんなの顔を見ながら向かい合って食事ができたことが嬉しかった』と言われたときは、居場所をひらいて良かったと感じました」

—すべてグリーンコープ食材でお昼の提供をしているそうですね。

「今日は菓子パンを何種類か用意しています。子どもたちが好きなものを選んで、持ち帰ってもらうようにしています。子どもたちにも『グリーンコープのパンって美味しいね』ととても好評です。いずれここで、グリーンコープの食材を使って、みんなで調理した食べものを食べてもらいたいです」



—大切にしていることは。

「私の幼いころを思い出すと、その地域に住んでいる大人の方々に育ててもらった経験があり、お祖母ちゃんの知恵袋のようなことや、何気ない大人の一言が今でも記憶に残っています。同じようにここに来た子どもたちが、たくさん大人や子どもと出会って、良い経験ができたらいいなと思っています。あと、居場所にいる間ずっと話をする子どももいます。今は両親が共働きの環境が多く、家庭で子どもたちとゆっくり話をする時間がなくなっているのかなとも思います。家庭でできないことを、居場所に来てすることで、子どもたちが悩みやストレスを発散できるといいなと思っています」

—今後やってみたいことなど。

「この居場所に地域の方にも来ていただいて、子どもたちと地域の方がつながるといいなと思っています。そしたら、通学の時や子どもが遊んでいる時などでも関わりが持てることで、子どもたちが安全になるし、反対に高齢者の方も、子どもたちと関わりを持つことで、地域で楽しく過ごせると思います。そんな地域づくりもやっていきたいです」

「後は、今は開催頻度が毎週土曜の9:00から13:00までですが、いつかは平日も開催して、例えば不登校の子どもたちの居場所としても活動ができたらいいなと思っています」

—ありがとうございました。

## 誰もが雨露しのげる居場所となるように

～大分のハスノハ子ども食堂取材しました～

グリーンコープのフードサポートでつながりのある、ハスノハ子ども食堂は、大分県別府市で活動する任意団体アイデナルボランティアサロンが運営しています。子ども食堂は、子どもたちのために毎日開催し、ほかにも学習教室や自然体験学習なども行っています。今回、代表の渡邊和美さんにお話を聞いてきました。

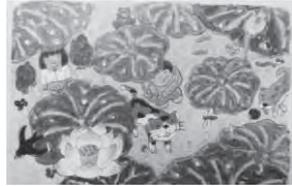


左 代表渡邊和美さん  
右 副代表花岡優子さん

——子ども食堂の名前の由来を教えてください。

「私たちは蓮の葉のようでありたいという想いがあります。蓮の葉は、頑丈というわけではありませんが、雨をしのげる傘となれます。

人間も、他の生き物も、誰もが雨露しのげるような場所が必要だと思います。その意味を忘れないようにハスノハ子ども食堂としました」



——子ども食堂を立ち上げたきっかけは。

「20代の頃から児童英会話講師をするかわら、母子支援や障がいのある子どもたちの活動支援、事件や事故で亡くなった方の遺族支援や、引きこもり支援などをしていました。その後、2011年に起きた東日本大震災では、福島の前地に入り、数年に渡って様々な支援活動をしていました。その後体調を崩してしまい療養の場所として大分県別府に移住しました」

「子ども食堂や学習支援、相談支援など公的なサービスが世の中に少ない現状があります。私もシングルマザーとして3人の子育てをしてきて、色々な面で苦労しました。支援を必要としている人はたくさんいて、困っている人の手助けをしたいという思いから、2018年にアイデナルボランティアサロンを立ち上げ、2021年の2月にハスノハ子ども食堂をオープンしました」

——具体的な活動内容を教えてください。

「学習支援に通う子どもたちのなかには、例えば塾に通う費用がない、発達特性を持っている、不登校、外国籍で日本語が得意でないなどの場合もあります。集団での勉強では対応が難しい場合でも、個々の状況に合わせて、マンツーマンで学習支援を行っています。もちろん私1人ではできないので、協力してくれる仲間や、地域に住むボランティアのメンバーと一緒に活動をしています」

「ハスノハ子ども食堂では、食事の提供を子どもだけでなく、家庭の事情に合わせて対応しています。家族みんなで食べに来られる方もいますし、ご家庭への食事の配達もしています。そして、食事の提供だけでなく、今後、自分で食事がとれるように料理を教えたりもしています。そのほかには、自然体験学習なども開催しています。参加してくれた子どもたちに、自然のなかで電気など使わず、自分で料理をする体験をしてもらい、楽しみながら学んでもらえるようにしています」

——毎日営業されているのはなぜですか。

「2021年2月オープンから2022年の9月末時点での延べ参加者は3,655人、開催回数は594回になりました。お正月もクリスマスも関係なく毎日するのは、むしろお正月やクリスマスなどのイベント時期の方が子どもたちは寂しい場合もあるからです」

——活動をするなかで嬉しかったことは。

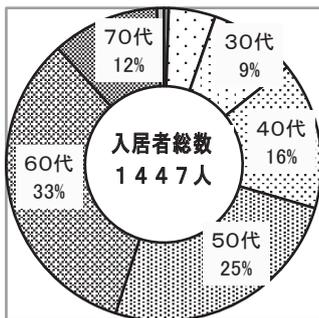
「ヤングケアラーと言われるような子どもたちや本当に支援を必要とする家庭とつながれたことです。そして、つながった子どもたちの成長の過程を見ることが何より嬉しいです。今では、私たちの活動（子ども食堂など）をお手伝いしてくれる子どもたちもいて、以前はあまり興味のなかった調理関係の学科に進もうとしている学生もいます」

「今後やってみたいことで、さまざまな事情を抱える子どもたちのそれぞれの歩幅に合わせた、学校とはひと味違う、学びの場や学びの形を創り出していきたいと思います」

——ありがとうございました。

## 抱樸館福岡の入居・退居などの状況

開所から2022年10月末までの入居者



	人数	割合
10代	11	0.8%
20代	82	5.7%
30代	127	8.8%
40代	222	15.3%
50代	361	24.9%
60代	470	32.5%
70代	161	11.1%
80代	13	0.9%
計	1447	100%

2022年10月末現在の入居者

76人(定員81名) 男性72名、女性4名

2022年9～10月の新入居者数・退居者数

新入居者数28名 退居者数23名

(注:10月末までの入居者数1,447名は、  
2度・3度入居した人も1名と数えています。)

抱樸館北九州の入退居の状況は、特集の際にご案内します。

抱樸館福岡の見学のご案内(現在、中止中)

- ・抱樸館福岡を身近に感じていただき、ホームレス問題を深く知っていただくために、広く見学を募ってきました。多くの方が見学に訪れてくださり感謝申し上げます。
- ・大変残念なことですが、現在コロナ禍のため、入居者の健康を最優先し、見学を中止しています。
- ・状況が変わりましたら、会報やホームページ等でご案内を再開させていただく予定です。ご了承下さい。

## 抱樸館を支える会の概要

抱樸館を支える会の目的

以下の事業・活動を目的としています。

- ◇ホームレス者支援事業
- ◇抱樸館に関する広報活動及び資金援助活動
- ◇これらに附帯又は関連する事業

設立年月日:抱樸館福岡が2010年5月に開設されるのにあわせて同年4月10日に設立

正会員:以下の18団体が正会員です。

- グリーンコープの各単協(15生協)
- グリーンコープ連合会
- NPO法人 抱樸(旧:北九州ホームレス支援機構)
- 社会福祉法人グリーンコープ

賛助会員

2022年10月末の賛助会員は、以下の通り

- グリーンコープの共同購入組員 10,726名
- グリーンコープの店舗組員・一般の方 184名
- 企業賛助会員 100社

その他(抱樸館の所在地)

- 抱樸館福岡(福岡市東区) 2010年 5月開所
- 抱樸館北九州(北九州市八幡東区) 2013年 9月開所
- 抱樸館下関:新たに開設を準備中
- 抱樸館熊本(熊本市中央区) 2018年12月開所

## 抱樸館を支える会 賛助会員と会費について

### 抱樸館を支える会 賛助会員募集

賛助会員を募集しています。  
賛助会員には、会報をお届けします。

#### グリーンコープの共同購入組員

賛助会員の申込には2つの方法があります。

- ①毎月250円の賛助会費を申し込みいただく(年間で3000円です)

毎月の商品代金と一緒に引き落としとなります。

共同購入申込書の「1300」で申し込みください。

- ②101000円の賛助会費を申し込みいただく何口でも申し込み出来ます。

申し込みいただいた月の商品代金と一緒に一括して引き落としとなります。

共同購入申込書の「1299」で申し込みください。

賛助会員は一度申し込みいただくと毎年更新されますので新たに申し込みいただく必要はありません。(グリーンコープの共同購入組員の場合)

- ①の賛助会員は毎月継続して250円請求させていただきます。②の会員は申し込みいただいた月に毎年一括して請求させていただきます。

### 一般の方、グリーンコープの店舗組員

101000円の賛助会費を何口でも申し込み出来ます。

郵便振替でお願いします。

郵便振替 01710-0-123003

一般社団法人 抱樸館を支える会

### 企業賛助会員 募集中です

企業賛助会員は、会費が1010,000円です。出来れば30(30,000円)以上でお願いします。申し込みは、下記へ。

「抱樸館を支える会」事務局

〒812-0011

福岡市博多区博多駅前1丁目5番1号

社会福祉法人グリーンコープ内

電話 092-482-1964

### 抱樸館の連絡先

抱樸館福岡 (電話 092-624-7771 FAX 092-624-7772)

〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8

抱樸館北九州(電話 093-883-7708 FAX 093-883-7705)

〒805-0027 北九州市八幡東区東鉄町7-11

抱樸館熊本(電話 096-245-7521 FAX 096-245-7522)

〒860-0811 熊本市中央区本荘